

質 疑 質 問 事 項

1. 子育て世帯について

- (1) 日常生活必需品の高騰による負担増加について。
- (2) 現在の給食提供の現状について。
- (3) 就学援助を必要としている状況について。

2. 伊豆山の土石流災害について

- (1) 齊藤市長は2012年5月の伊豆多賀駅裏の土砂流出後、同じ業者が条例違反の盛土をしている伊豆山の現場を、何故視察されなかったのか。
- (2) 伊豆多賀駅裏の土砂流出後、市は伊豆山の安全対策に、どのように取組まれたのか。当時の行政対応の問題点は。
- (3) 市は盛土の届出書の内容が不備であるのに、何故受理したのか。
- (4) 市は盛土の実行者は誰であると認識されているのか。
- (5) 変更届では土堰堤を構築すると謳っているが、構築されていない。  
市は土堰堤を造るよう誰に指示したのか。
- (6) 盛土高さは県条例で15mまで。届出書でも15mである。  
市は15mを超えた盛土の撤去を誰に指示したのか。
- (7) 市は前土地所有者による条例違反の盛土の内容を、現土地所有者に説明されたのか。
- (8) 伊豆山地区の復興まちづくりについて。

質 疑 質 問 事 項

1. 新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮者等への支援策について

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置など、社会情勢や就労環境の変化等により生活環境が著しく悪化し、生活困窮状態に陥る世帯が増加する状況にある中で、経済活動の再開や生活水準が回復するまでの間、このような方々の生活を維持するため、どのような支援が行われてきているのか

2. 霊柩自動車の運行と利便性の向上について

①市の霊柩自動車を利用する際に、どのような手続きが必要となるのか

②現在の運行ルートは帰路を無くし、片道みの運行となっているが、改めてそのように変更した経緯について

③車両についてもマイクロバスから現行の車両へ変更した時期、乗車人員の変遷について

④車両について、現在リース契約を結んでいるとの事だが、そのリース期間の終期及び運転管理業務委託の終期について

⑤霊柩自動車の運行や車両に関し、市民からはどんな意見などを聞いているのか

3. 津波防災対策について

①静岡県では沿岸市町に対し、津波警戒区域の令和4年度末の指定を目指しているが、本市が指定される区域はどのようなになるのか

②津波警戒区域の指定後、どのような対応が求められるのか

4. 熱海観光局について

熱海観光局の設立は、観光目的税導入とともに、前回の熱海市長選における齊藤市長の公約であったが、この間、新型コロナウイルス感染症の拡大、伊豆山土石流災害により市内経済は大きな打撃を受け、宿泊客数が増加傾向にあった4年前とは熱海を取り巻く環境は変化している。市内経済の回復には長い道のりが必要であり、目の前の事象に柔軟に対応するとともに、将来ビジョンをしっかりと持った取組が求められるが、熱海観光局についての認識を伺う

質 疑 質 問 事 項

1. 議案第32号熱海市公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について
  - ①今後の予定されている面整備計画についてはどのようなになっているのか
  - ②経費の削減にはどのように取り組むのか
  
2. 伊豆山の復興計画について
  - ①伊豆山復興基本計画(案)は誰のため、何のために作成されるものなのか
  - ②伊豆山復興基本計画(案)の柱となるものは何なのか
  - ③今後、どのような過程を経て、どのような形で反映されるのか
  
3. 「静岡県盛土等の規制に関する条例」及び「盛土規制法」について
  - ①静岡県の盛土規制条例が施行されることで、何がどのように変わるのか
  - ②この条例が市町にもたらす利益と課題は何か
  - ③盛土規制法とはどのようなものか。運用にあたり課題とされるものはないのか
  - ④条例と法律といった2つの柱ができたことは大きいですが、悪徳業者を排除するためには市町は何に注意を払わねばならないのか
  
4. 県の公表した第三者委員会の報告書について
  - ①齊藤市長は「検証が不十分で市の行政手続きだけを改善しても再発防止にはつながらない」と発言している。検証が不十分で再発防止につながらないのであれば、県の第三者委員会の結論は何だったのかという事になるが、具体的に再発防止の観点から、何がどのように不十分で納得できないのか伺う
  - ②熱海市としてはどのような改善が必要と思うのか
  - ③また遺族と被災者が盛土の前と現在の土地所有者などに損害賠償を求めている裁判で、市は原告の「補助参加人」として参加するが、被告からは訴訟告知を受けることになった。最悪どのような事態が考えられるのか

質 疑 質 問 事 項

1. 伊豆山土石流災害について

- ①静岡県との協議を経て前土地所有者に安全対策の措置命令を発出したが、発出までの経過と経緯を説明されたい。
- ②この措置命令に従わなかった場合のペナルティはあるのか。
- ③行政代執行となった場合、執行は県か市かどちらになるのか。  
費用はどうなるのか。
- ④7月1日から静岡県に於いて新条例が制定されると聞くが熱海市への影響はあるか。
- ⑤源頭部に残された土砂等の除去を先行して行わせられないか。

2. 高齢者外出支援対策について

新人議員となった平成27年6月定例会以来、これまで実に多くの同僚議員と共に高齢者の外出支援に対し質問や提言をしてきているが、一向に実現可能な対策に至っていない。改めて高齢者の生活を支える為の外出支援対策を提示できないか齊藤市長に答えを求める。

3. コロナウィルスワクチン接種について

これまでのワクチン接種状況を教えてもらいたい。

- ①これまでの接種率について年齢別ではどのような違いがあるか。
- ②ファイザー社製ワクチンとモデルナ社製ワクチンの接種比率は。
- ③武田社ワクチン（ノババックス）に対する期待度はどのようなものか。
- ④武田社ワクチン（ノババックス）は何時から接種できるのか。何か制約があるのか。

4. 豪雨による市道への倒木被害の防止策について

民有地又は管理地の樹木の対応に関して、倒木防止策を講じるように要請はできないか。倒木等を目撃した場合、何処へ通報すればよいのか。

質 疑 質 問 事 項

1. 逢初川沿いの道路計画について

2. 伊豆山地区における復興まちづくりについて

3. 伊豆山土石流災害からの事業者再建・復興への支援について

伊豆山土石流災害で被災した小規模事業者の再建に向けては、静岡県により補助制度が創設されたが、時限的な措置であり、災害対策基本法第63条に基づく警戒区域の解消時期が不明である中、補助制度が有効な支援につながるかが疑問である。また、地域の復興につながる今後のまちづくり（土地改良事業）における事業者支援、産業振興の視点からの考え方について

4. 土石流災害後1年が経過しようとしている伊豆山小学校の学校生活について

- ①大規模災害を経験した伊豆山小児童の学校生活の様子や、子どもの心理面での問題などについて
- ②伊豆山幼稚園が本年度から休園となっているが、今後の再開の見込みについて
- ③伊豆山小学校の児童数の推移と今後の学校運営について

質 疑 質 問 事 項

1. 熱海伊豆山土石流災害に関する原因究明について

(1) 残った盛土の取扱いについて

市として源頭部上部の盛土に対して認知した時期を含めた認識を伺う。

(2) 現在考えられる土砂災害に関する情報発信について

源頭部に隣接する宅地造成について安全な状況とは言えないが、下流地域住民への危険性の周知に対する市としての認識を伺う。

(3) 隣接する宅地造成工事は是正工事について

発災した逢初川方向への雨水の流入は無いとしているが、相反する内容の是正工事が行われている事に対する市としての認識を伺う。

(4) 新たに公表した盛土の処理方法について

土砂搬入が行なわれていた当時の現地確認作業時の様子を含め、熱海市の関わりと、「盛土を行った原因者が判らない」とする県の発表に対する市の認識を伺います。

(5) 盛土崩壊の危険性の認識について

説明に不都合な情報を伏せて原因究明を進めている可能性があるのではないかと疑念を抱くが、この事に対する市としての認識を伺う。

(6) 情報共有について

県は当時の状況について把握出来ていたのではないかと疑念を抱く。市から県に提供した資料等のことも踏まえ、市としての認識を伺う。

(7) 原因究明の進め方について

地下水の影響について重点的に調査が進められているが、それ以外の可能性についても十分検討に加える必要があるのでは。原因究明の進め方に対する市の認識を伺う。

(8) 土採取等規制条例の取扱いについて

地位継承の手続きや発災の要因等を考えるとき、検証委員会の公平性が保たれているのか疑問に感じる。この事に対する市の認識を伺う。

質 疑 質 問 事 項

1. ウイズコロナ、アフターコロナの時代の観光戦略について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光需要は大きく落ち込み、熱海市もご多分に漏れず厳しい状況に置かれている。このような状況から立ち直り、再生するため、今後はどのように基幹産業を強化すべきと考えているか。今後の取組の方向性と主な施策について問う。

2. 防災行動計画「タイムライン」について

災害による被害を最小限にするため、防災行動計画いわゆる「タイムライン」の事前作成が有事の際に非常に役立つと考えられるが、現在熱海市ではどこまでの取組ができているのか。

質 疑 質 問 事 項

1. 市長に問う

市長に立候補された時の公約に従い政策を進めてきたと思われるが、4年たった今、市長が見据えた未来の形にどれだけ近づけたと考えるか。

2. ヤングケアラーについて

深刻な状況下でありながらも当事者に自覚がなく、問題が潜在化したままになっているヤングケアラーが多いと聞く。市はどの程度事例を把握しているのか。どのようなケースがあり、その対応は。

3. 防災について

伊豆山土石流災害を境に市民の間で災害情報に対する関心が高まっているが、スマートフォンからの情報取得は難しいなどの理由で、いまだに「広報あたま」のみを頼りにする方は少なくない。しかし地形の問題などで聞こえにくい地域があるため防災ラジオの更なる普及は必須であると思われる。防災ラジオはどの程度普及しているのか。各家庭で購入する際の補助制度は十分か。



質 疑 質 問 事 項

質疑

1. 議案第28号 令和4年度熱海市一般会計補正予算(第2号)  
まちづくりに要する経費について

質問

1. 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について
2. 伊豆山土石流災害における支援制度について
  - ①被災者生活再建支援制度
  - ②義援金の配分
  - ③みなし仮設住宅
3. 市営住宅家賃の収入算定について
4. 認知症初期集中支援チームについて
5. インボイス制度について
6. 観光に対する危機管理について
7. 行政機構改革について(観光部と建設部の分離)

質 疑 質 問 事 項

1. 伊豆山土石流災害に関して、被災者へのヒアリングの取組方法とその進捗状況について
  - (1) 現在、どのようにヒアリングが行われているのか
  - (2) 具体的に、何世帯、何名の方から何を聞き、何が調査できているのか
  
2. 県行政対応検証委員会の最終報告書について
  - (1) 静岡県は『法律上の瑕疵は別として、行政で出来る事はあった事を反省する』と総括しているが、熱海市としてはどのような見解なのか
  - (2) 措置命令発出見送りについて、委員会の検証に間違いはないか
  - (3) 現在、熱海市が所管している種々の土地利用の事業で、本件のような届出や申請に不備が認められる案件に対する点検や改善指導等はしっかりと行われているか
  
3. 災害対策基本法第63条に基づく警戒区域解除の見通しについて  
現在、警戒区域の対象世帯の皆様は、避難生活を余儀なくされている状況だが、現状での警戒区域解除の見通しについて、及び部分的な区域の解除の可能性を伺う
  
4. 落ち残った盛土及び第二盛土の安全対策について
  - (1) 現在県が公表している「落ち残り」とされる盛土は約2万 $\text{m}^3$ であり、先般完了した県の応急排水対策工事及び市の排水対策（側溝の構造の変更等）の効果と、今後の梅雨時期及び台風、地震に対する安全対策について伺う
  - (2) 新たに発覚した11,800 $\text{m}^3$ の残土について、最悪の事態を想定した場合、現状の堰堤や現状の応急対策で住民の安全がしっかり担保されているのか
  
5. 伊豆山地区の復興計画について
  - (1) この計画遂行に、どのくらいの被災者所有の土地が必要となるのか
  - (2) 小規模住宅地区改良事業を選定する説明だが、被災者に理解して頂くための問題をどう解決していくか
  - (3) 今後の逢初川の改修により、流下能力が30分の1となることは、1ヘクタール以上の上流部の開発行為が可能となり、現所有者の有益となる可能性がある。被災者や市民は納得できないと思うがいかがか
  - (4) 説明会において、先祖代々の土地を手放し、再分譲される土地を購入したいと希望しても、希望が通らない事もあるとの説明だったが、優先的な配慮や財源の支援についての当局の考えはどうか
  
6. 伊豆多賀駅裏・上多賀宝泉寺上・下多賀山伏大橋下の開発問題について
  - (1) 実際、どのくらいの土砂が残り、また、投棄されているのか
  - (2) 住民の安全性については現状どうなのか

質 疑 質 問 事 項

1. 昨年7月3日の伊豆山土石流災害に関して
  - (1) 熱海市はこの原因をどのように捉え、どのように解しているか
  - (2) 静岡県の第三者委員会の報告は、土石流災害の原因究明に寄与しているか
  - (3) 伊豆山復興基本計画は、被災者救援、被災地復旧・復興を主体に進められているか
  
2. 熱海市立地適正化計画に関して
  - (1) この計画策定に際し、住民の意見意向をどのようにして聞かれたか
  - (2) この計画の大目標である「暮らしやすさ」とは、どのようなことか
  - (3) この計画の要点である居住誘導区域と開発行為について
  - (4) 熱海市立地適正化計画と市域の67.7%を占める山林に関して
  
3. 熱海市の教育現場に係る諸問題について
  - (1) 文部科学省が、本年始め公表した、教員不足の事実は、熱海市には存在しないか
  - (2) 中学校における部活の校外委託に関して

質 疑 質 問 事 項

1. 伊豆山土石流災害復旧と観光地熱海の再生について、市長に伺います。
  - (1) 熱海市は現時点で、伊豆山土石流発生原因と責任の範疇についてどのような考えでいるのか。
  - (2) アフターコロナ及び伊豆山土石流災害復旧予算など、莫大な財源が求められている「観光地熱海」にとってV字回復の鍵は何だと思うか。
  - (3) 熱海市は現況の宿泊施設と関連業界他の税収を前に、枯渇しつつある財源からみて、今後、市政運営を賄えるのか。また、賄えるとすればどのような妙案があるのか。お答え下さい。
2. 税収全体が落ち込んでいる状況の中、最新の市税滞納額について、法人の滞納額の総額、過去と比較した増減額、業種別の傾向について説明せよ。
3. 政府の取組を前にして、岸田総理のWe b 3による成長と分配政策の一貫である、暗号資産課税を撤廃した（ブロックチェーン特区）として、熱海市は立候補すべきであり、それが、観光地熱海の再生案の一つの大きな目玉となると確信しているが、当局の考えを質す。
4. アフターコロナに向けて、また、伊豆山土石流災害を目の当たりにして、以前から当局に提案している、世界フィンテックサミットにおいて、世界数百社からベスト8位に選出され表彰されたN F T特許を持つ国内唯一の企業として実績のある専門業者との提携を前提に、熱海市の地域通貨としての「熱海コイン」を、まずは、熱海温泉への宿泊利用客を対象に、暗号資産取引所に上場し、地域通貨としての利用とあわせて真摯に取り組むことに対する、当局の考えを質す。
5. 「熱海コイン」を熱海の『地域通貨』として創設することで、その資金を活用して「熱海港観光施設用地」に「外資ホテル誘致」促進を提言するが、当局の考えを質す。
6. 観光地熱海の新生、復活案として、成田に週3便就航する「ロイヤルブルネイ航空」を活用し、ブルネイ・ダルサラーム国を始めとしたアラブ首長国連邦・ドバイその他の富裕国からの外国人観光客誘致促進事業を推進すべきだと考えるが、当局の考えを質す。
7. ブルネイ・ダルサラーム国との交流を軸にした「熱海ブルネイ交易センター」（仮称）を庁内所管課の一部に設置し、市民に対する「見える化」を図りながら、外国人観光客誘致、東アジアイスラム教国からの旅行者を対象とした「和のハラール」の創作や、「外資ホテル誘致」への促進を図れないか当局の考えを質す。

質 疑 質 問 事 項

8. 東アジアの豊国「ブルネイ・ダルサラーム国」をより理解して頂くため、市当局及び市議会の代表者及び観光業界の「ブルネイ視察」と「ブルネイからの熱海への相互視察」を、先ずは、年内にも熱海市側からロイヤルブルネイ航空を活用してブルネイ視察を実施することが双方にとっても、より多くのビジネスチャンスにもつながる最大の効果となると考えますが、当局の考えを質す。
9. 設立準備委員会が立ち上がった「熱海型DMO」に関し、役員構成案の理事15名という人数は、DMOが効率的に業務を遂行していくには多すぎると心配している。DMOがこれまでの組織と違う意味のある組織になるためには、例えば、若手や女性、IT関連に強い人材の登用等を急ぐべきと考えるが、当局の考えを質す。

質 疑 質 問 事 項

1. 伊豆山復興計画について

- ①地域全体の復興について重視している点は
- ②逢初川中流部の河川改修計画が出されているが、上流部・下流部についてはどのような計画か
- ③第二の盛土や鳴沢川流域の安全性についてはどうか
- ④復興基本計画案にある「地域に潜在するいくつかの問題点」とは何をさしているか

2. 交通不便地域への対策について

- ①「あいのり」タクシー活用次世代観光・地域交通プラットフォーム構築実証事業に本市はどういう関わりをしているか
- ②この事業では交通弱者支援、観光業界、タクシー業界にも有益だと思うが、市の見解は

3. 学校給食費の保護者負担軽減について

急激な物価高、食材費や光熱水費の高騰が懸念されるが市としての対応は

4. 補聴器購入助成制度について

- ①県内23市の中で高齢化率が最も高い本市では、かなりの方が難聴で不自由な思いをされている。難聴になるとどんなリスクがあるか
- ②専門医の診察を受けやすくするにはどうすればよいか